

■発行■
2007年10月
vol.9
ファルマバレーセンター
E-Mail mail@fuji-pvc.jp
URL www.fuji-pvc.jp

「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」



〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055-980-6333 FAX055-980-6320
県立静岡がんセンター研究所1階

米・ニューメキシコ州政府関係者視察団が来訪 新たな研究協力やビジネス展開へ期待膨らむ



■山口総長のプレゼンテーション後、ワークショップが行われた



■オリンパス三島事業場を訪問したニューメキシコ州視察団

9月6日、アメリカ合衆国ニューメキシコ州の州政府、ロスアラモス研究所、州立大学等の関係者視察団11人が、経済産業省大臣官房審議官ら7人と、新たな研究協力の進展とビジネス関係の強化を目的に、ファルマバレープロジェクト関係の企業、静岡がんセンターおよび同研究所を訪れた。

一行は、ファルマバレー長泉工業団地で今年4月に業務を開始した「オリンパス三島事業場」を訪問した。血液分析装置などの臨床診断検査機器を中心に説明を受けるとともに、製造工程などを興味深く見学した。

次に、静岡がんセンター、同研究所に移動し、病院施設などを見学。昼食をはさんで、相互理解と交流を深めるためのプレゼンテーションを中心としたワークショップに参加した。

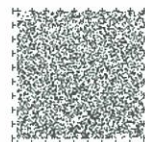
徳増有治経済産業省大臣官房審議官から、「今回の訪問で新たな友好交流が図られることを期待する。」との開会挨拶後、静岡がんセンターの山口建総長が同センターとファルマバレープロジェクトの概要説明を行った。続いて、静岡大学の興直孝学長から静岡県の科学技術の現状と今後の展開に関するスピーチが行われた。

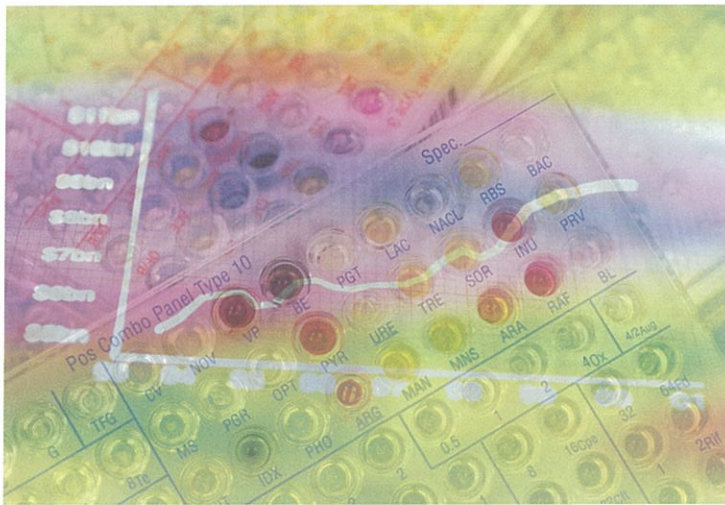
ニューメキシコ州政府からは、フレッド・モンドラゴン長官

が、同州の経済状況を中心に州の魅力について語り、日本との新たな研究協力やビジネス機会進展の期待を述べた。

がんセンターとの共同研究について、三菱電機(株)は「次世代型陽子線治療装置の開発」、富士フィルム(株)は「次世代ネットワーク画像診断システムの研究」を発表。また、浜松ホトニクス(株)、フォトニクス・イノベーションズ(株)は「光関連機器の開発・業務概要」、静岡大学工学部は「瞳孔検出技術に関する研究」を説明した。最後にがんセンターから「早期胃がんに対する内視鏡治療」についてプレゼンテーションが行われた。充実した内容に、ニューメキシコ州関係者からも高い関心が寄せられた。

今回の訪問を機に、相互交流が図られ、新たな研究協力やビジネス展開の進展が大きく期待されている。





ものづくり技術をバイオに生かす

静岡がんセンター・同研究所、国立遺伝学研究所など地域の医療・研究拠点と、バイオ関連企業、ものづくり系企業をネットワーク化し、バイオ産業を支える人材の育成、新事業の創出、ベンチャー育成を図る「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク事業」。2年目を迎え、新たな取り組みがスタートしている。

多彩な企業をネットワーク

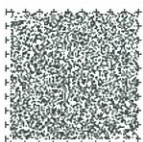
富士山麓ファルマバレーバイオネットワークに参加する企業は、現在50社。医療、食料品関係はもちろん、一般機械器具や輸送用機械器具類、木材・家具等を製造する企業まで幅広い。主な活動として、企業、大学、研究機関、金融機関などとのマッチングを図る「バイオ技術シーズ・ニーズ発表会」や「バイオ関連セミナー」の開催、バイオ関連分野に精通したコーディネータが企業を訪問し、課題の掘り起こしや助言を行う「地域コーディネータ活動」などを行っている。

測る技術の最新動向

ファルマバレーセンター(PVC)はこのほど、事業の一環でバイオビジネス・情報交流サロン「測るテクノロジー」を開催した。8月から10月の3ヶ月間に計6回、世界でもトップクラスの企業や研究者を招き、バイオテクノロジーを支える「測る技術」の最新動向や、現場のニーズを商品化に結びつけた具体

例を紹介した。

「ファルマバレープロジェクトにかかわるあらゆる階層の人たちに、



バイオとは何か、バイオビジネスの可能性や技術、戦略を伝え、気楽に話し合ってもらうのが主旨」とPVCの白井文晴コーディネータは情報交流サロンの目的をこう語る。

10月2日に行われたアジレント・テクノロジー(株)の田谷敏貴シニア・アプリケーションサイエンティストの講演には24人が参加。ゲノミクスの基礎や、同社のゲノム解析装置「DNAマイクロレイ(※)」が、インクジェット技術の開発やヒトゲノム解析を背景に、いかに精度を上げていったかなどを解説した。



■講演の合間に参加者から活発な質問が飛び交った情報交流サロン

地域の技術集団育成を

参加者は必ずしもバイオビジネスに精通しているわけではない。しかし、旋盤、電気、機械など今まで培ってきた技術力に新たな付加価値をつけるこ



■「こうしたサロンを通じて、地域企業のボトムアップを図りたい」と語る白井コーディネータ

とで、この地域が目指す医療・健康分野に進出できる。すでに、ネットワーク参加企業の中から、地元大手企業向けに精密機械などのメンテナンスを引き受けるグループが立ち上がっているという。「将来的には大手企業やがんセンター、遺伝研などのサポートを行う技術集団を作り、東京、大阪、あるいは海外へと守備範囲を拡大していきたい」(白井コーディネータ)。今後も、さまざまな業種の中小企業をネットワークし、こうしたサロンを通じて知識の向上や具体的なビジネスの手順を学ぶための取り組みを続ける予定だ。

※数万から数十万に区切られたスライドガラス、またはシリコン基盤の上にDNAの部分配列を高密度に配置し固定したもの。数万から数十万の遺伝子発現を一度に調べることができる。

富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク

経済産業省が推進する産業クラスター事業の一環である「首都圏バイオネットワーク」の拠点の一つとして、関東経済産業局の採択を受けた。同じく採択されたかずさ拠点(千葉)、つくば拠点(茨城)、横浜・神奈川拠点(神奈川)との有機的な連携を進めている。

また、ファルマバレープロジェクトの主要事業に位置づけられ、地域の行政はもちろん、静岡県と包括的事業連携協定を結ぶ東京工業大・東京農工大・早稲田大や、静岡がんセンター・同研究所と共同研究を行う企業、県内外の大学、研究機関など、同プロジェクトの資源を有効利用しながら、新事業の創出、ベンチャー企業の育成を図っている。

首都圏バイオネットワーク



バイोजパン2007へ出展

国内最大級の国際バイオイベントである「Bio Japan 2007」が、「バイオテクノロジーの発展と産業化の振興」を目的に、9月19日からの3日間、パシフィコ横浜を会場に開催された。



■海外からの視察が相次いだ企業ブース

PVCは「しずおか富士山麓」拠点として出展、ファルマバレープロジェクトをPRした。あわせて本県のネットワーク会員企業6社が、販路開拓・拡大、共同研究等の促進を目的にブース出展した。不二工芸製作所の前島正容社長は「受注に発展しそうな引き合いもあり、収穫が多かった」と出展に手ごたえ。期間中の商談で、数件の引き合いや新たな連携が見込まれている。

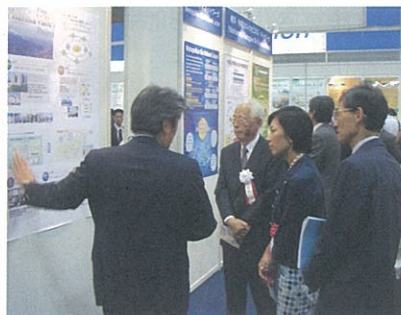
海外からも高い評価

20日には、会場に隣接するホテルで、70ものバイオクラスター(うち海外

Bio Japan 2007 県内出展企業

企業名	出展内容	セールスポイント
東海部品工業株式会社	インプラント、手術機器などの医療機器	マイクロネジやインプラントの製造、チタン、ステンレスなど難切削材の加工技術
株式会社 ホリックス	骨接合用インプラント(骨折治療材)など	整形外科分野における骨接合用インプラントの製造技術
株式会社 アトマックス	アトマックスノズル、少量噴射制御機器など	極めて微細で均一粒子の噴霧装置、ニーズに合わせた設計製作
バイオリイス株式会社	遺伝研式生物資源運搬・保存カード(NIGカード)	生物資源の常温輸送、長期保存が可能
SEIRYU Bio株式会社	茶樹茸の紹介、サプリメント企画・開発、酵素探索など	微生物や天然素材を用いた健康に役立つ新素材の提案
株式会社 不二工芸製作所	発芽そば発酵エキス含有ソフトカプセルなど	発酵発芽ソバを利用した健康に役立つ製品の開発

44)関係者が一堂に会し「JETRO BIOLINK FORUM 2007」クラスター・企業ネットワークが行われた。会場では、クラスター間の活発な交流が図られ、ファルマバレーのブースにも、カナダ、ニュージーランドなど海外の担当者が訪れ、活発な交流が行



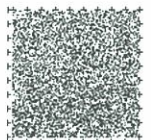
■経済産業省関係者にファルマバレープロジェクトを説明

われた。

今回のイベントに参加し、海外のクラスター関係者と意見交換を行ったPVCの白井コーディネータは、「海外の担当者はファルマバレープロジェクトのポテンシャルを高く評価している印象を受けた。今後の活動に生かしていきたい」と語った。

会員募集!

富士山麓ファルマバレーバイオネットワークでは、バイオビジネスに関心のある法人、個人を広く募集しています。入会は無料です。お問い合わせはファルマバレーセンター(☎055-980-6333)まで。



静岡産業大学と県総合健康センターとの共同研究始まる



■参加者にも好評の認知動作型トレーニングマシン

静岡県総合健康センターでは「健康筋力づくり推進事業」で高齢者などの基礎体力や歩行能力の向上に関する研究を実施してきた。

今年度は、認知動作型トレーニングマシンによる「ホルモン・免疫機能に対するトレーニング効果に関する研究」を静岡産業大学と共同で行っている。

この研究は、51歳から74歳までの男女15人を対象に、本事業の県西部地域における拠点として期待される同大学にマシンを設置、学生との協働により週2回、10月末まで3か月間実施する。参加者にも好評だ。研究結果は本年度中にまとめることにしている。

県東部地域で開始された本事業は4年目を迎え、徐々に県下全域へと広がりを見せている。

がん患者向け、口腔ケア組み合わせセット用品を考案



■左から、スタンダードセット、健口サポートセット、低刺激セット

静岡がんセンターでは、がん治療に伴う口腔内の合併症を軽減させるた

よって3種類のグループに分けられることがわかり、この成果をいかしたがん患

者さん向けの歯ブラシ・はみがき剤・デンタルリンスを組み合わせ3種類の「お口の症状別・口腔ケアセット」が考案された。これにより患者さんは、がん治療が開始される前から適切な口腔ケアを自身で実施することが可能となった。この研究で、口腔内の状態に

め、静岡県歯科医師会、サンスター(株)の3者で共同研究を実施してきた。これまでの研究で、口腔内の状態に者さん向けの歯ブラシ・はみがき剤・デンタルリンスを組み合わせた3種類の「お口の症状別・口腔ケアセット」が考案された。これにより患者さんは、がん治療が開始される前から適切な口腔ケアを自身で実施することが可能となった。このセット用品は静岡がんセンター内の売店(“風のマーケット”)のほか、東部地区の歯科医院や県内の主要なドラッグストアで入手可能となっている。

「かかりつけ湯」と「伊豆八十八ヶ所霊場巡り」をPR

平成19年9月29日(土)、30日(日)の2日間、しずおかツインメッセ(静岡市)で「しずおか元気応援フェア2007」が開催された。福祉、健康、食をテーマに多くの団体、企業が出展し、来場者は4万7千人を数えた。

かかりつけ湯協議会、NPO地域活性スクランブルフォーラム、三嶋観光バス(株)は共同でブース出展を行い、「か

かりつけ湯」と「伊豆八十八ヶ所霊場巡り」を紹介した。ブースには、子供から大人までたくさん

の人が訪れ、温泉クイズにチャレンジ。熱川温泉の湯の華などがプレゼントされた。温泉(かかりつけ湯)と伊豆八十八ヶ所霊場巡りを組み合わせた旅行プランには来場者の関心も高く、会場内でのツアー受け付けにその場で申し込む人も見られるなど、商品としての伊豆の魅力が改めて実感することとなった。



■大勢の来場者でにぎわった、かかりつけ湯ブース